

海外自治体幹部交流協力セミナー2024（ニューヨーク事務所管内） 事業概要

1 テーマ

多様な地域資源を生かした都市の活性化～世界から選ばれるまちを目指して～

2 海外参加者数：10名

David Adkins デビッド アドキンス 団長
U. S. A. アメリカ合衆国、州政府協議会、事務局長
Cynthia Dorrington シンシア ドリントン 副団長
CANADA カナダ、カナダ都市研究所、副議長
Mary Jo McGuire メアリー ジョー マグワイア
U. S. A. アメリカ合衆国、全米カウンティ協議会、元会長/コミッショナー
Stacy Householder ステイシー ハウスホルダー
U. S. A. アメリカ合衆国、全米州議会議員連盟、副会長
Patricia Garrett パトリシア ギャレット
U. S. A. アメリカ合衆国、ディケーター市、市長
Paul Shipway ポール シップウェイ
CANADA カナダ、オンタリオ州自治体実務者協議会、会長
Isabelle Bully-Omictin イザベル ブリーオミクトン
U. S. A. アメリカ合衆国、国際市・カウンティ支配人協会、マネージング・ディレクター
Marc Landry マーク ランドリー
CANADA カナダ、カナダ自治体管理者協議会、部長
Amy Glasscock エイミー グラスコック
U. S. A. アメリカ合衆国、アメリカ合衆国州最高情報責任者協会、プログラム・ディレクター
Andrea Fox アンドレア フォックス
U. S. A. アメリカ合衆国、全米都市連盟、プログラム・ディレクター

3 日程〔2025年2月2日（日）～8日（土）〕

月 日	予 定	宿泊地
2/2(日)	・参加者来日、オリエンテーション	東京都
2/3(月)	・東京セミナー（日本の地方自治講義、外務省・総務省訪問） ・クレア主催歓迎レセプション	東京都
2/4(火)	・受入自治体（浜松市）へ移動 ・地方交流事業（浜松市長表敬訪問・歓迎昼食会、施策説明）	浜松市
2/5(水)	・地方交流事業（視察・市施策説明）	浜松市
2/6(木)	・地方交流事業（視察、意見交換会） ・帰国前夕食会	浜松市
2/7(金)	・東京都へ移動・自由行動	東京都
2/8(土)	・参加者帰国	—

4 実施内容

《東京セミナー：2月3日（月）》

（1）日本の地方自治に関する講義（明治大学教授 木村俊介）

浜松市訪問前に、参加者の日本の地方自治に関する理解促進を図るため、明治大学公共政策大学院ガバナンス研究科の木村俊介教授による講義を開催した。木村教授から地方自治体の基本構造や役割について、日本とアメリカ合衆国・カナダを比較しながら説明していただいたことで、日本の地方自治体を取り巻く現状について理解を深めた。



（2）外務省

外務省地方連携推進室の本田室長より、地方連携推進室が実施している地方連携事業などについて説明があり、その後に意見交換を行った。意見交換の場では、外務省地域連携室の職員と意見交換を行い、地方自治体と国際交流の現状や課題、今後の連携強化の可能性について有意義な議論を交わした。



（3）総務省

総務省の大臣官房総括審議官を表敬訪問した後、会議室で総務省職員より、地方自治体における最新の動向についての説明を受けた。その後、総務省職員との意見交換を実施し、意見交換会では、マイナンバー制度などについて、参加者から活発な意見が交わされ、有意義な議論の場となった。



（4）CLAIR 主催歓迎夕食会

CLAIR が主催する歓迎夕食会を開催し、参加者 10 名のほか、クレアから常務理事、クレアニューヨーク事務所赴任予定者等が参加した。参加者の出身自治体やセミナーテーマなどに関し、忌憚のない意見交換を行い、親睦を深める良い機会となった。



《浜松市セミナー：2月4日（火）～2月7日（金）》

（1）浜松市長表敬訪問・歓迎昼食会

浜松市の受け入れに対する謝意を伝えるため、浜松市長を表敬訪問した。訪問では、市長から温かい歓迎の言葉をいただいた。歓迎昼食会では、市関係者との交流を深めるとともに、浜松の魅力や地域課題への理解を深める有意義な時間を過ごすことができた。



（2）施策説明

企画課からは総合計画について、都市計画課からは都市計画マスタープランについて国際課、創造都市・文化振興課及び産業振興課からは浜松市が国際戦略において重点的に取り組んでいる各課の施策について説明が行われ、参加者は浜松市の施策に対する理解を一層深めることができた。

浜松市多文化共生センターでは、施設の職員から事業内容や実施体制について説明が行われ、浜松市が先駆的に取り組んできた多文化共生施策について学ぶことができた。



（3）スズキ歴史館

スズキ歴史館では、戦後復興の中で培った繊維技術を活かし、織機メーカーから自動車メーカーへと発展したスズキの歴史を学んだ。特に、軽自動車の技術革新への取り組みが印象的であり、燃費性能や安全性の向上を追求し続ける姿勢に感銘を受けた。展示を通じて、日本の自動車産業の発展とともに歩んできたスズキの“ものづくり”への情熱を感じることができ、技術力と挑戦の精神が同社の成長を支えていることを改めて実感した。



（4）ヤマハイノベーションロード

次に訪れたヤマハイノベーションロードでは、「感動を・ともに・創る」というヤマハの理念を強く感じた。特に近年はAIなどの最新技術を取り入れ、音楽の可能性を広げる取り組みが印象的だった。AIによる自動作曲や演奏支援技術は、音楽表現の新たな形を生み出し、多様な人々が音楽を楽しむ環境を創出している。また、楽器製造の伝統と最先端技術の融合が、ヤマハの革新性を象徴していた。技術革新がもたらす音楽の未来に大きな可能性を感じた視察となった。



（5）花の舞酒造

花の舞酒造を訪問し、静岡県産の米と水を活かした酒造りへのこだわりを深く理解した。地域の自然環境を最大限に活かし、伝統的な手法と最新技術を融合させた製造工程は、日本酒の魅力さをさらに引き出していた。また、地域密着型の酒造りを進める姿勢にも感銘を受けた。さらに、視察を通じて、日本酒造りには良質な水が不可欠であることを改めて実感した。



スズキ歴史館、ヤマハイノベーションロード、花の舞酒造の視察を通じて、地域産業を支える企業の重要性を改めて実感した。それぞれが独自の技術や理念を活かし、伝統と革新を融合させながら発展を続けている点が印象的だった。スズキ歴史館では、軽自動車や二輪車の開発の歴史を学び、技術革新への挑戦を感じた。ヤマハはAIなどの最新技術を駆使し、音楽の可能性を広げ、花の舞酒造は地元の米と水を活かした酒造りを通じて地域に貢献している。ものづくりの現場を実際に見ることで、各企業の強みや理念を深く理解する貴重な機会となった。

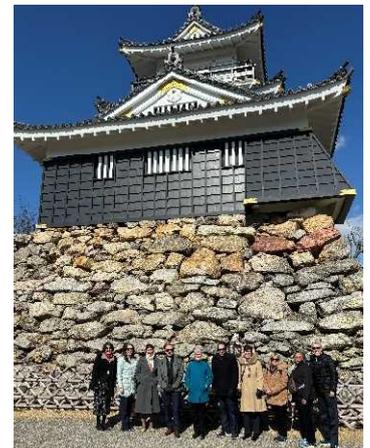
(6) 龍潭寺

龍潭寺を訪れ、国の名勝記念物に指定された小堀遠州作の庭園を鑑賞し、その洗練された美しさに深く感銘を受けた。巧みに配置された石や緑が織りなす景観は、静寂の中に躍動感を感じさせ、日本庭園の奥深さを改めて実感した。また、井伊家ゆかりの寺としての歴史にも触れ、戦国時代から続く井伊家の歩みや、地域とのつながりを学ぶ貴重な機会となった。庭園と歴史が融合するこの場所は、日本の伝統文化の魅力を体感できる特別な空間であると感じた。



(7) 浜松城

浜松城を訪れ、徳川家康が青年期を過ごした城としての歴史的意義を改めて実感した。家康がこの地で戦国時代を生き抜き、のちの天下統一へとつながる基盤を築いたことを知り、その戦略的な視点や城の役割に興味を深めた。また、城下町の発展とともに歩んできた浜松の歴史を学び、地域の変遷や文化の広がりを感じることができた。



(8) 浜松市茶室 松韻亭

さらに、呈茶体験では、茶道の所作や精神に触れ、日本文化の奥深さを体験する貴重な機会となった。静寂の中で味わう一服の抹茶は、日本の伝統美を象徴し、心を落ち着かせる特別な時間となった。浜松城と呈茶体験を通じて、歴史と文化を学びながら、日本の伝統が現代にも受け継がれていることを改めて感じる事ができた。歴史と文化の両面から浜松の魅力を深く理解する貴重な機会となった。

(9) 意見交換会（浜松市役所）

地方交流事業の総括として、浜松市関係職員を迎え、浜松市役所にて参加者の視察結果に関する意見交換を行った。浜松市の施策について、参加者と市職員の双方から活発な意見が交わされ、有意義な議論の場となった。

(10) 帰国前夕食会

帰国前食会を浜松市内の飲食店で開催した。

浜松市滞在の最終日ということもあり、視察に関する事以外にもお互いの文化等について交流するなど、和やかな雰囲気のもとで地方交流事業が締めくくられた。